

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ティンクルスター		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	現在だけでなく、将来を見据えた支援、療育の質の高さ	子どもの現在の課題に取り組むことは前提として、将来的に必要なとなる課題を踏まえたサポートを行い、本人だけでなく家族も含めて安心を提供が出来るよう、心掛けて支援を行っている。	より一層寄り添った支援を行っていただけるよう視野を広げて物事を捉えていき、さらに専門的な支援を行っていただけるように知識を深めていく。
2	ソーシャルスキルトレーニングを中心とした、活動の充実	日替わりの活動内容に変化を持たせ、飽きずに楽しみながら子どもたちが参加が出来るよう工夫している。活動内容を特性や発達段階に応じて難易度を調整し、無理なく取り組める環境を整えている。また、遊びのルールや子ども同士のぶつかり等を指導員が全て介入するのではなく、話し合いの場を設けて、自己解決することが出来る能力も高めている。	成長に応じ、保護者のニーズ、本人のニーズに合わせた活動を取り入れていき、幅広い活動の提供を継続して行っていく。
3	成長段階に合わせた環境の提供	成長段階に合わせて環境を区切ることで、身体的、精神的に年齢が上がっても楽しめる環境を整えることから、寄り添った支援を長く提供することが出来る。	保護者様から子どもに必要な場所と感じていただけるよう、各職員が個別で対応出来る力をつけていき、より信頼関係を深め、精神的な安心を提供することが出来る環境を目指していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの主体性をはぐくむ支援に関する課題	支援という立場から職員が指示をしてしまいがちだが、子どもたち自身で考えて行動が出来る環境を作り、子どもが受け身になりすぎないように工夫をしていく。	例として、レクリエーションの際に、職員がレクリエーションの提案を行うのではなく、子どもたちの提案してもらうことやグループで相談して決める機会を作り、自身で考え、選択するという日を取り入れ、主体的に参加を促していく。
2	場面に応じた環境提供の難しさに関する課題	学習室と遊戯室の防音対策が難しく、下校時間も異なるため集中できる環境づくりが難しい現状がある。	ある程度の時間を決め、その時間帯は静かに過ごす等の工夫を入れ、場面に応じた環境を作っていく、ストレスを軽減していく。
3			